



令和6年度の各業務の取組みについて

これまで低迷してきた経済活動が雇用や所得環境の改善等により徐々に回復基調となる中、令和6年度は当社の中期経営計画（令和4～6年度）の最終年度として、システムの安定稼働と機能強化にこれまで以上に取組むこととしており、各業務における取組みについてご紹介いたします。

まず、信用事業システム業務についてはJAバンク青森県域戦略に沿った課題整理を行いながら着実な実行に向けて取組んでおり、これまでに全国版電子帳表システムへの移行と第5次全国印鑑システムへの移行を行うとともに、今年度導入する営業店システムについては県集合研修を実施し、窓口担当者の新端末操作の習得を図りJAの窓口業務の円滑化に向けて取組んでいます。今後は10月から来年2月にかけて順次営業店システムへの切替支援に取組むこととしております。

次に、当社とJA各拠点を通信回線で結ぶ総合ネットワーク事業業務（信用事業、共済事業、管理経済事業）については、関係先と連携し事業の円滑な運営に取組んでおり、引続きネットワーク回線の使用状況やネットワーク機器の監視を行いながら障害発生時には関係先と連携のうえ迅速に対応することとしております。

管理経済事業システム業務については、青森県農業協同組合中央会が策定した「JAグループ青森情報・電算構想実施基本計画書（第5次）」に基づきシステムの機能強化にかかる開発・改修と安定稼働に努めており、財務会計システムや経営管理システム等の改修、消費税申告システムの開発、ポータルサイトの構築および導入支援等に取組むとともに、情報セキュリティにかかる次期システムの構築に取組むこととしております。

最後に、令和6年度もおおよそ半年が経過しておりますが、これからも当社が県内JAの電算業務全般を担う組織としてJAの業務遂行に貢献できるよう各関係先と連携し取組むとともに、繰り返しのようになりますが、10月から順次各JAに導入される営業店システムの業務相談・支援等を行ってまいりますので、前広にご活用いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

株式会社青森県農協電算センター

9 目次 CONTENTS

巻頭言	1	経営の窓口	14
フラッシュ	2	組織農政通信	16
インフォメーション	4	JA相馬村NEWS	18
東北農政局通信あおもり	12	輝き・部会の子カラ	19
実践農業者支援	13	新風	20

フラッシュユ



JA青森

バサラコーン出荷始まる 生育順調 (7/30)

青森市浪岡地区で、特産であるバサラコーンの出荷が始まった。同地区の特産品であるバサラコーンは1本の重さが500gほど。一般的なトウモロコシに比べて2～3割大きく糖度も十分で、“大きくて甘い”。

出荷説明会及び現地巡回講習会には、生産者や関係者24人が集まり、出荷基準や出荷方法を確認したほか、ほ場を視察し生育状況を確認した。



JAつがるにしきた

露地ネギ出番 生育順調 (8/1)

JAつがるにしきたは、JA稲垣野菜センターでネギ出荷説明会を開き、生産者や関係者ら27人が参加。JA担当者が出荷規格や荷受け方法について説明した。

本年産は春の少雨や乾燥により細身傾向だったが、現在は順調に推移。今後、高温により増加すると予想されるネギアザミウマやネギコガなどの防除に向け、生産者と情報を共有した。



JAごしょつがる

エダマメ出荷本番 収量確保し安定供給へ (8/9)

JAごしょつがるえだまめ部会は、JA木造総合支店でエダマメの目揃え会を開いた。

生産者や市場関係者合わせて14人が参加。JA担当者が出荷基準や個人選果、共同選果に応じた出荷方法について説明した。2024年度は、販売高1550万円、取扱数量約30tを目指す。



JAつがる弘前

剪定テキスト作成 技術を継承 (7/26)

つがる弘前農協わい化りんご生産部会東支部は、弘前市の園地で夏季研修会を開いた。

同部会では、わい化樹を主幹形で仕立てる剪定方法のポイントをまとめたテキストの作成を計画している。今回の研修会は、テキスト作成における意見交換と、剪定技術向上を目的に実施した。



JA相馬村

24年産リンゴ収穫始まる (8/2)

弘前市相馬地区のリンゴ園では、極早生品種「祝」の収穫時期を迎えた。

「祝」は皮が青く、小玉で酸味があるのが特徴で、リンゴの中で最も早く市場に出回る品種。県内では「大中」と呼ばれることもあり、お盆のお供えやお土産などに珍重されている。

JA津軽みらい



ミニトマト出荷順調（8/4）

JA津軽みらい管内ではミニトマトの出荷が順調で、生産者の個人選別したミニトマトパック（1パック200g）や3kgバラが京浜市場を中心に14カ所の市場へ出荷している。

同JAの2024年産作付けは約19㍉で、生産者は156人。11月末までに1050㍉の出荷を計画しており、販売金額7億3800万円を目指す。

JAゆうき青森



地場産食材でおにぎり講習会（8/6）

JAゆうき青森は、東北町でおにぎり講習会を開いた。参加した16人が、JA管内で収穫された野菜を使用したおにぎりを握った。

講習会は、幅広い年代に親しまれているおにぎりを通じて、地元食材の魅力を発見し食育につなげることを目的として開かれた。

JA十和田おいらせ



新作ポテトチップス限定発売（8/23）

JA十和田おいらせとカルビーは、県庁で新作「青森県産じゃがいも使用ポテトチップスだししお味」を発表した。

JA横浜町支店管内のジャガイモのみを使用し、昆布だしがジャガイモのうま味を引き立てる自慢の商品。8月26日から東北6県のスーパーマーケットやドラッグストアなどで数量限定販売する。

JAおいらせ



ナガイモ栽培講習会（8/7）

JAおいらせやさい推進委員会長いも部会は、三沢市でナガイモ栽培講習会を開いた。上北地域農業普及振興室三沢分室の担当者が、生育状況や追肥のポイント、病虫害防除など今後の管理について説明した。

本年産の生育状況は、つる長、いも長は、平年よりは劣ってはいるものの、前年と比べるとどちらも上回っている。

JA八戸



キュウリ 病気の蔓延や樹勢低下に注意（8/22）

JA八戸きゅうり専門部五戸支部は、管内生産者のほ場でキュウリの栽培講習会を行い、生産者4人が参加した。

北東北では8月現在、悪天候による樹勢の低下で尻太果や中細果などが多く、中段部分の孫枝も弱い状態にある。今後も台風など悪天候も予想されるため、追肥による樹勢回復と摘葉による病気の予防が重要となる。

令和6年度東北北海道地区JA女性組織リーダーおよびフレッシュミズリーダー合同研修会

県JA女性組織協議会役員・組織活動体験発表者等12名は、8月20日・21日の両日、秋田県秋田市で開催された、令和6年度東北北海道地区JA女性組織リーダーおよびフレッシュミズリーダー合同研修会に出席した。（7道県全体では176名の出席）

研修会では、7道県代表者の組織活動体験発表、JA全中の情勢報告、家の光協会の家の光持ち寄り読書・情勢報告等があり、記念講演ではワークデュオ「すぼらたん☆」が「スボラ上手のススメ」と題して、上手に手を抜きスマートな家事・育児に心がけ、楽しく明るい人生を送ることについて講演した。

組織活動体験発表では、本県代表のJA八戸女性部まべち支部の坂本順子さんが「新しい仲間との出会い次世代へつなげるバトン」をテーマに発表し、女性部活動の広がりや次世代へのつながりが高評価を得て、最優秀賞を受賞した。

坂本さんは、令和7年1月22日・23日に東京で開催されるJA全国女性大会に東北北海道地区の代表として出席する。



▲最優秀賞を受賞した坂本さん（前列中央）

青森県JA直売所キャンペーン

JA青森中央会は、県内のJA直売所を訪れたお客様に、抽選で県産牛肉などを270名様にプレゼントする「青森県JA直売所キャンペーン」を令和6年9月1日～10月31日まで開催している。

対象となる県内18か所のJA直売所で、500円以上購入した方に応募ハガキを進呈いたしますので、そのハガキに必要事項を記入の上、ご応募ください。

キャンペーンの詳細はJA青森中央会のホームページにて。

青森県JA直売所キャンペーン
わくわくプレゼント

2024年
9/1(日)～
10/31(木) 合計270名様に当たります!

対象店舗でお買上げ500円以上のお客様に応募ハガキを進呈！
必要事項をご記入の上、ご応募ください。

抽選品は抽選の上、商品の発送をもってかえさせていただきます。（12月中旬～下旬）
※応募総数の多い場合は、ご応募下さい。



詳細はこちら

行事（9/10～10/10）

9月

- 10～11日 認証上級準備研修会（県農協会館）
- 11日 県下JA女性部長・支部長・事務局合同会議（県農協会館）
- 12日 農業労働力確保対策作業部会（県農協会館）
- 12日 新規就農者支援対策作業部会（県農協会館）
- 18日 県参協定例会（県農協会館）
- 19日 計算書類等および事業報告等読み方研修会＋会計制度基礎研修会（県農協会館、WEB）
- 25～26日 次世代リーダー育成研修会（ユニット3）（㈱青森原燃テクノロジセンター）

10月

- 2～4・8・9日 内部監査士検定試験準備研修会（県農協会館、WEB）
- 9日 定例理事会（県農協会館）



こく しょう こく さん 国消国産レシピ

前菜編
メイン編
スイーツ編

乃木坂46のメンバーが好きな「お肉」「じゃがいも」「にんじん」、そして「野菜ジュース」を使った、チキンカレーのレシピをご紹介します。
カレーはお米推しの遠藤さんも大好き。「野菜ジュース」でいつものカレーがコクと旨味の濃縮した味に!



野菜ジュースで作る チキンカレー

■材料(2人分)
(カレー)
 鶏もも肉(一口大)1枚(250g)
 玉ねぎ(くし切り) 1個
 にんじん(乱切り) 1/2本
 じゃがいも(一口大) 1個
 ご飯 適量
 野菜ジュース 400ml
 カレールウ 50g
 バター 10g
 めんつゆ(3倍濃縮)大さじ1
 サラダ油 大さじ1
[A] 塩 適量
[A] コショウ 適量
(添える野菜)
 かぼちゃ 適量(5mmの薄切り)
 れんこん 適量(5mmの薄切り)
 オクラ 適量
 ゆで卵(半熟)1個
 サラダ油 大さじ1



【作り方】

- 鍋にサラダ油を引いて中火で熱し、**[A]**をもみ込んだ鶏もも肉を皮目から焼く。両面に焼き色が付いたら、玉ねぎ(くし切り)、にんじん(乱切り)、じゃがいも(一口大)を加えて炒める。
- 全体に油が回ったら、野菜ジュースを加える。煮立ったらアクを取り除いてめんつゆを加え、ふたをして弱火で15~20分煮込む。
- 野菜が煮えたら一度火を止め、カレールウを加えて混ぜる。カレールウが溶けたらバターを加えて再び弱火にかけ、10分ほど煮込む。
- フライパンにサラダ油を引いて中火で熱し、5mmの薄切りにしたかぼちゃとれんこん、オクラを入れて焼く。野菜に火が通ったら取り出す。
- お皿にご飯を盛り、カレールウをかけ、かぼちゃ、れんこん、オクラをのせる。半分に切ったゆで卵を添えたら、完成!



遠藤 さくら

野菜ジュースで
美味しさと栄養価を
プラス!



詳しい調理のショート動画はこちらから



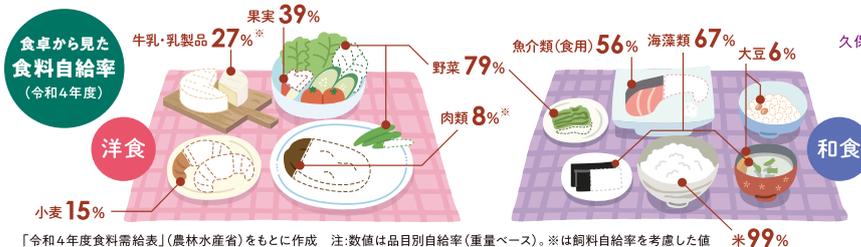
こく しょう こく さん どうして『国消国産』が大切な?

『国消国産』それは「私たちの『国』で『消』費する食べものは、できるだけこの『国』で生『産』する」という考え方

【私たちが知っておきたいこと】日本の食料自給率^{※1}は僅か**38%**^{※2}

日本の食料自給率は、この50年間で半減し、先進国のなかで最低水準に

※1 私たちが食べている食料のうち、どのくらいが国内でつくられているのかを示す割合 ※2 出典:「令和4年度食料需給表」(農林水産省)



「令和4年度食料需給表」(農林水産省)をもとに作成 注:数値は品目別自給率(重量ベース)。※は飼料自給率を考慮した値

国産食材を手にすることは
私たちの食卓を未来へ
つなぐことでもあるんだね。



久保史緒里

メンバーが調理を楽しむ動画等を公開中!
ぜひアクセスしてください!



乃木坂46 国消国産



JAグループ

耕そう、大地と地域のみらい。

46
乃木坂

「ライフイベントセールスリーダー養成講座を開催」

JAバンク青森では、「ライフイベントセールスリーダー養成講座」の開催を実施した。

本講座は、ライフプランサポートを実践するキーマンの養成を目的に毎年開催しているもので、6月の初回開講から10月までの間で、全3回（のべ6日間）の集合研修に加え、JA内での現場実践および所属店舗内における提案型セールスの浸透を図る取組みを通じて、ライフイベントセールスリーダーとしてのノウハウや知識の習得を目指すもの。

今年度は、県内JA本支店の窓口担当者9名が受講。6月に開催された第1回目の集合研修で、ライフイベントセールスリーダーとしての役割などを確認、認識をした。また、セールスの基本である「伝わるコミュニケーション」のとり方やカウンターなどの来客スペースの活用方法を実践活動に向けたスキルやノウハウを学び、4か月間におよぶ自JAでの実践活動をスタート。

第2回目となる今回の集合研修は、ライフイベントセールスリーダーとしてのこれまでの活動状況をチェックするとともに、今後、活動を浸透させていくうえで必要なノウハウや幅広いアプローチスキルの習得を目的に開催。研修内容は次のとおり。

① **ライフイベントセールスリーダーの役割を理解し、業務改善の提案ができるようになる**

各受講者がこれまでの現場での活動を振り返り、リーダーとしての意識や仕事への取り組み方、後輩、同僚・他部署との関わり方についてセルフチェックを行い、今後の活動の方向性や自身の行動の改善点などを確認した。

また、グループディスカッションでは、各受講生が前回の研修課題について実践結果を報告。今後の業務を効果的かつ円滑に進める

うえで必要な「PDCAサイクルの回し方」や「業務の優先順位の考え方」などを参考に改善点について話し合った。

② **各種商品のお客様のニーズを引き出し、提案できるようになる**

JAバンクの利用者基盤拡大の柱である「インターネットバンキング」および「JAカード」のお客様のニーズ喚起を行うため「質問トーク」の仕方などを学んだ。

また、資産形成・運用商品である「農業者年金」「iDeCo（イデコ）」を提案する際に必要な商品性や特徴、節税メリットなどを理解するとともに、「投資信託」「NISA（ニーサ）」との違いを整理し、ロールプレイングを通じてアプローチスキル習得に取り組んだ。

なお、集合研修最終回となる第3部は、10月に開催し、研修テーマは「相続、資産形成、FP口座知識の活用」を予定している。また、任意参加の第4部は、来年1月に「FP検定受験対策講座」として開催する予定。



▲養成講座受講中のJA担当者

行事（9/10～10/10）

農林中央金庫

9月

- 10日 相続実務研修（*）
- 11日 青森県JA信用担当部課長会議（県農協会館）
- 12～13日 農業融資（簿記・税務）研修（*）
- 18日 JAバンク青森運営協議会専門委員会（県農協会館）
- 25～26日 資産形成・運用提案（知識編）研修（*）

27日 反社会的勢力対応研修（*）

10月

- 2～3日 信用事業マネジメント実務強化研修（県農協会館）
- 5日 信用事業業務検定試験（県農協会館）
- 8日 第2回証券外務員試験（県農協会館）

（*）はウェブ研修

県内各地でフジワンの散布実演

JA全農あおもりは7月16日から県内の各水稲ほ場でフジワンの散布実演を行っている。

フジワンは、水稲いもち病の予防剤として長年使用されているが、発根促進・登熟歩合・高温登熟下における白未熟粒の発生軽減について登録されている農薬でもある。

令和5年産は、8月～9月の高温の影響で、東北農政局発表の10月末現在の1等米比率が68%と例年より低かった。そのため、令和6年産については、土づくり資材等の対策と併せて、水稲の高温対策の一環として県内10か所で試験を実施し、効果を確認する。

今後収穫物調査を行い、フジワンの有効性を検証していく予定。



▲散布実演会の様子（三戸町で）

「AgrasT25」ながいもに農薬散布

JAゆうき青森・JA全農あおもりは7月26日、北東北スカイテック(株)と連携し、JAながいも部会あおぞら講習会で、ドローンを活用した農薬散布の実演を行った。

生産者や関係機関ら約30名が見守る中、DJI社製ドローン「AgrasT25」で散布。散布幅やダウンウォッシュの強さのほか、薬剤がながいもの上部から根本までしっかりと散布されたことも確認された。

出席した生産者は、「薬剤準備から散布完了まで10分以内で済んだことに驚いた。降雨後では場条件が悪化し、防除機械がほ場に入りづらい状況となってしまうため、ドローンによる空中からの散布は今後検討したい」と話した。

ドローンに適した農薬の適用拡大が進み、利用場面が増加していることから、今後、生産者の省力化に寄与するため、ドローン散布等の作業請負実施に向けて検討をすすめていく。



▲実演会の様子（東北町にて）

第50回青森県花の共進会・フラワーフェス

JA全農あおもりは7月26日、青森市の県観光物産館アスパムで「第50回青森県花の共進会」の審査を実施した。

県内の花き生産者から輪ギク、トルコギキョウ、アルストロメリアなど計128点の出品があり、最優秀賞（農林水産大臣賞）にJA八戸の佐野純一さんが出品した輪ギク（精の一世）が選ばれた。共進会は県産花きを広く県民に紹介し消費拡大を図るとともに、優れた花きを展示・評価することで生産者の生産意欲高揚と栽培技術の向上を目的に行っている。

最優秀賞以外の上位入賞者は次のとおり。

▽優秀賞＝渋谷宗弘（トルコギキョウ・JAつがるにしきた）角沢孝夫（ディスバッドマム・JA八戸）明戸輝子（アスター・JA十和田おいらせ）
▽金賞＝千澤鷹大（トルコギキョウ・JA八戸）藤森光明（輪ギク・JAごしょつがる）石上菜穂美（輪ギク・八戸市）佐藤健一（トルコギキョウ・JAつがるにしきた）品川峰弘（ひまわり・JA津軽みらい）山下達雄（りんどう・JAつがる弘前）

翌日7月27日、青森県観光物産館アスパムで「あおもりフラワーフェスティバル2024」を開いた。

26日の「第50回青森県花の共進会」で表彰された花や県産花きで制作されたアレンジメントなど約160点が展示された。

当日はクイズラリーを実施し、青森県の花に関

するクイズに答えて全問正解した方には花をプレゼントした。また、フラワーアレンジメント教室や花市場の競り人が行う模擬セリ体験を実施した。アレンジメント教室の参加者からは「花が好きな母にアレンジメントをプレゼントするために参加した」などの声があった。



▲県産花きを審査する関係者



▲アレンジメント教室の参加者

ごっくんキャンペーン第1弾抽選会

J A全農あおもりと青森県牛乳普及協会は8月8日、青森市の県農協会館で、6月15日から7月末日まで展開した令和6年度第1回目となる「牛乳ごっくんキャンペーン第1弾」のプレゼント抽選会を開いた。合計10490件の応募の中から、当選者210人を決定した。



▲抽選する担当者

当選者には賞品として、「アラジングラファイ トトースター」や「あおもり和牛」など、合計210人にプレゼントする。

県牛乳普及協会の担当者は「第2回の応募期間は9月1日から10月末日まで実施する。県産牛乳をたくさん飲んで生産者を応援して欲しい」と話す。

あおもりやさいフェスティバル2024

J A全農あおもりは8月17日、青森市のサンロード青森で8月31日の「やさいの日」に向けたイベント「あおもりやさいフェスティバル2024」を開催した。県産やさいの認知度向上と消費拡大を目的として開いたもので、親子連れで賑わった。

小学生以下を対象にしたやさい詰め放題選手権を開催。1分間で袋にどれだけ野菜を詰められるかを競い、最も重かった方には賞品が贈呈された。

また、好評だったのが体験型アトラクション。だいこん神経衰弱や、やさい輪投げをゲーム感覚で楽しむことができるもの。参加者からは「やさいのゲームは初めて」「お家に帰って野菜を食べたい」などの声があった。



▲やさい詰め放題選手権の参加者

高校生の選手らにりんごジュースを提供

8月15日から18日の4日間、青森市の青森市スポーツ広場で「第3回U-18青森ユースサッカーフェスティバル」が開かれた。

J A全農あおもりは15日と16日の2日間、中学生の選手ら約500人に対しりんごジュースを提供。この日は好天に恵まれ、暑い中競技に励む選手らの姿が伺えた。ジュースディスペンサーの蛇口から冷たいジュースを注ぐ選手らで賑わい、早々に品切れとなった。

選手からは「試合後のりんごジュースは嬉しい」「青森のりんごだからおいしい」などの声があっ

た。

提供した商品はJ Aアオレンのりんごジュース「あおもりねぶたレギュラータイプ」。

全農あおもりでは、7月23日から26日まで開催した「第3回U-15青森ジュニアユースサッカーフェスティバル」においても、同商品を提供した。



▲りんごジュースを楽しむ選手

「あおもり和牛」を使用した料理楽しむ

J A全農あおもりや農協・行政・流通業者など関係団体で構成される「あおもり牛販売促進協議会」は8月22日、(株)八戸パークホテルとコラボし、「あおもり和牛」を使用したディナーイベント「あおもり和牛の夕べ」を開いた。あおもり和牛は上質な赤身に甘みのあるきめ細やかな脂が特徴の牛肉。このイベントはあおもり和牛の認知度向上・消費拡大を目的として企画された。

イベントは八戸市の八戸パークホテルで行われ、サーロインステーキや、炙り寿司、すき焼きなどあおもり和牛を使用した料理5品とデザートがふるまわれ、参加者はあおもり和牛の美味しさを堪能した。



▲料理を楽しむ参加者

りんご販売懇談会

J A全農あおもりは8月27日、弘前市のアートホテル弘前シティで令和6年度りんご販売懇談会を開き、販売計画や取扱対策について報告した。令和6年産は系統集荷720万箱（1箱20^{kg}、前年産比134%）。また、販売計画は1200万箱（1箱10^{kg}、前年産比133%）に設定した。全国の取引会社や県関係者、J Aの代表者ら約210人が出席し、計画達成に向けて意識統一を図った。

重点実施策として生産面では、コンフューザーR設置面積拡大による防除の徹底やJ A・品種別集荷目標に基づく集荷推進の強化を図ることとした。販売面では、卸売市場との連携強化による有利販売を実践し、コスト増高を反映した価格形成に係る理解醸成に向けて取り組む。また、物流対策としてパレット輸送に対応した選果施設改修の検討などパレット輸送拡大に向けた取り組みを強化するとした。

全農あおもり運営委員会の乙部輝雄会長は「本県のりんごを取り巻く環境は、近年の異常気象による収穫量の減少から価格は高値基調で推移している。一方、生産者の高齢化・労働力不足により、生産基盤の脆弱化が進行しており、生産振興の重要度が高まっていることに加え、2024年問題に対応した、輸送体制の構築が早急に求められている。消費地と産地が一体となり施策を進め、組合員所得の向上に取り組んでいく」と意気込んだ。

同日、系統共販拡大に尽力した取引会社7社と担当者5名を表彰した。



▲挨拶をする乙部会長

行事（9/10～10/10）

10月

9日 運営委員会（県農協会館）

JA共済きすなの青い森プロジェクトの開催

JA共済連青森は7月23日、JA共済ビジネスサポート株式会社と森林組合あおもりの協力のもと、「JA共済きすなの青い森プロジェクト」を平内町で開催し、平内町管内の小学校から六年生・保護者・先生の計34名が参加した。同プロジェクトは平成29年から開催している。

当日は天候に恵まれ、森林プログラムでは「JA共済きすなの青い森」（弁慶内地区）で枝打ちなどの作業見学をし、植樹観察等の自然観察を行った。薪割り体験では、苦戦しつつも楽しみながら挑戦する様子が伺えた。食育プログラムでは食品ロスや食育に因んだクイズで、現代の「食」に関する問題や課題について学んだ。平内消防署の協力により、救助活動の見学や起震車を使用した地震体験を行ったあと、木工クラフトプログラムでは木材を使用したクラフト体験に挑戦した。

児童は「薪割りが楽しかった!」「森について興味を持ちました」「たくさんのことを学べて、またやりたいです!」と楽しんで参加している様子が伝わってきた。



▲薪割りに挑戦する児童



▲木工クラフトに挑戦する児童



▲起震車による地震体験



▲BBQの様子



▲集合写真



L A交流集会の開催

J A共済連青森は7月29日に、フレアージュスウィート（青森市）でL Aの相互交流による推進意欲の向上を図ることを目的としたL A交流集会を開催した。交流集会では、L Aや本店L A管理者、L Aトレーナーを対象に、147名が参加した。

開会に際し、令和5年度J A共済優績ライフアドバイザー全国表彰伝達式が行われ、J Aつがるにしきた白戸龍義さんが優績表彰・特別表彰（自動車共済の部）にて表彰された。

研修の第一部では、L A同士の交流を深めるきっかけづくりとして、L A活動の取組みについてグループディスカッションを行い、第二部ではオフィスSK. の三瓶建一講師による「パワフルな推進活動が続けるために」というテーマで講演が行われた。

L A同士で積極的な意見交換が行われ、意欲的に交流している様子が伺えた。



▲表彰の様子



▲意見交換の様子



行事（9/10～10/10）

9月

- 12日 建物共済J A審査員有資格者研修会(オンライン)
- 18日 共済担当部課長会議(ホテル青森)
- 19日 J A自動車契約担当審査員有資格者研修会(オンライン)
- 21日 J A共済交通安全フェスティバル(道の駅なみおかアップルヒル)
- 22日 J A共済交通安全フェスティバル(ファーマーズ・マーケットかだあ〜れ)
- 26日 J A建物損害査定研修会(県農協会館)
- 28日 書道・交通安全ポスターコンクール審査会(県農協会館)
- 30日 J-WAYS定着編研修会(県農協会館)

10月

- 4日 J A共済きずなの青い森プロジェクト(平内町)
- 8日 共済事業担当常勤理事会議(ホテル青森)
- 9日 運営委員会(県農協会館)
- 10日 生命共済J A審査員有資格者研修会(オンライン)

「スマート農業技術活用促進法」が成立・公布されました

「農業の生産性の向上のためのスマート農業技術の活用に関する法律（スマート農業技術活用促進法）」が先の通常国会にて成立し、令和6年6月21日に公布されました。

（法律の施行は、令和6年10月1日を予定）

スマート農業技術活用促進法とは

農業者の減少等の農業を取り巻く環境の変化に対応して、農業の生産性の向上を図るため、①「スマート農業技術の活用及びこれと併せて行う農産物の新たな生産の方式の導入に関する計画（生産方式革新実施計画）」と②「スマート農業技術等の開発及びその成果の普及に関する計画（開発供給実施計画）」の2つの認定制度を設けるものであり、認定を受けた農業者や事業者は金融等の支援措置を受けることができます。



2つの認定制度の概要

1 生産方式革新実施計画

(1) 生産方式革新事業活動の内容

- ・スマート農業技術の活用と農産物の新たな生産の方式の導入をセットで行い、農業の生産性を向上させる事業活動

(2) 申請者

- ・生産方式革新事業活動を行おうとする農業者等（農業者又はその組織する団体）
（スマート農業技術活用サービス事業者や食品等事業者が行う生産方式革新事業活動の促進に資する措置を計画に含め支援を受けることが可能）

(3) 認定を受けると活用可能な特例措置

- ・日本政策金融公庫の長期低利融資
- ・行政手続の簡素化（ドローン等の飛行許可・承認等）
- ・法人税、所得税の特例（特別償却）など



2 開発供給実施計画

(1) 開発供給事業の内容

- ・農業において特に必要性が高いと認められるスマート農業技術等（※）の開発及び当該スマート農業技術等を活用した農業機械等又はスマート農業技術活用サービスの供給を一体的に行う事業
（※スマート農業技術その他の生産方式革新事業活動に資する先端的な技術）

(2) 申請者

- ・開発供給事業を行おうとする者（農機メーカー、サービス事業者、大学、公設試等）

(3) 認定を受けると活用可能な特例措置

- ・日本政策金融公庫の長期低利融資
- ・農研機構の研究開発設備等の供用等
- ・行政手続の簡素化（ドローン等の飛行許可・承認）
- ・登録免許税の軽減など

詳しくは、
スマート農業技術活用促進法
ホームページへ



多様で魅力的な 農福連携（ノウフク）の取組を募集します。

ノウフク・アワード 2024

エントリー受付中！ 2024年7月26日～9月30日



「東北農政局通信あおもり」は、
東北農政局ホームページ
（青森県拠点）に掲載して
おり、印刷も可能です。



実践 農業者支援

農作業アルバイト募集の留意事項 ～適正な労務管理をめざして～

1. はじめに

「実りの秋」を迎えるこの時期、農作業アルバイトの雇用機会が増えてきます。雇用する際は、労働契約上のトラブルが発生しないように「労働条件通知書」等を書面で交付し、労働条件を明示する必要があります。本年5月に開催した農業労働力確保対策作業部会でもお知らせしましたが、労働条件明示ルールが一部改正されていますので、募集する際の留意事項を改めて紹介します。



2. 書面での明示が必要な事項

- (1) 労働契約期間
- (2) 期間の定めのある労働契約の場合は、更新の有無・更新する場合の基準
- (3) 就業場所と従事する業務内容
- (4) 労働時間 (①始業・終業の時刻 ②残業の有無 ③休日・休暇 ④勤務ローテーション等)
- (5) 賃金 (①決定方法 ②支払方法 ③締日・支払日)
- (6) 退職に関する事項 (解雇事由含む)
- (7) その他事項 (①昇給の有無 ②退職手当の有無 ③賞与の有無 ④雇用管理の改善等に関する相談窓口)

* (2) (3) は令和6年4月から改正された内容

* (7) はアルバイト (パートタイム) の労働者に対して明示が必要な事項

→法律上の定義では「パートタイム労働者」にアルバイトは含まれます。

【参考】労働者が希望した場合は、メール・FAX等による明示も可能 (印刷できることが条件)

3. 労働契約の禁止事項

労働条件を書面で明示するほか、労働契約の禁止事項もありますので注意が必要です。

- (1) 国籍、信条、社会的身分による差別的取扱い
- (2) 女性に対する男性との賃金差別
- (3) 労働者が違約した場合の違約金の支払い (数分の遅刻で1日分の賃金の半額を減額する等)
- (4) 労働者にお金を前貸しし、給料から天引きで返済させること
- (5) 労働者に強制的に会社にお金を積立させること

労働契約法には労働契約の成立や変更、労働者の健康や安全、不利益変更の禁止、解雇権の濫用などが規定されています。また、大学生をアルバイトで雇用する際の注意事項として、授業や試験 (準備期間含む) 等に配慮するなど、学業と両立できる労働環境づくりが求められます。

4. まとめ

アルバイトと言っても雇用することに変わりはありません。「2～3週間だけだから」「1日2時間だけだから」など、安易な募集は雇用後のトラブルに繋がりますので、雇用後の対応も含めてしっかりと準備する必要があります。また、アルバイトであっても雇用保険の条件を満たすと加入が必要になります。未加入の場合は労働者の不利益となりますので、社会保険等の対応も含め適正な労務管理に努めましょう。

(中央会 農業対策部)

経営の窓口

JA 3線モデル・リスク管理強化に向けた取組みについて (上)

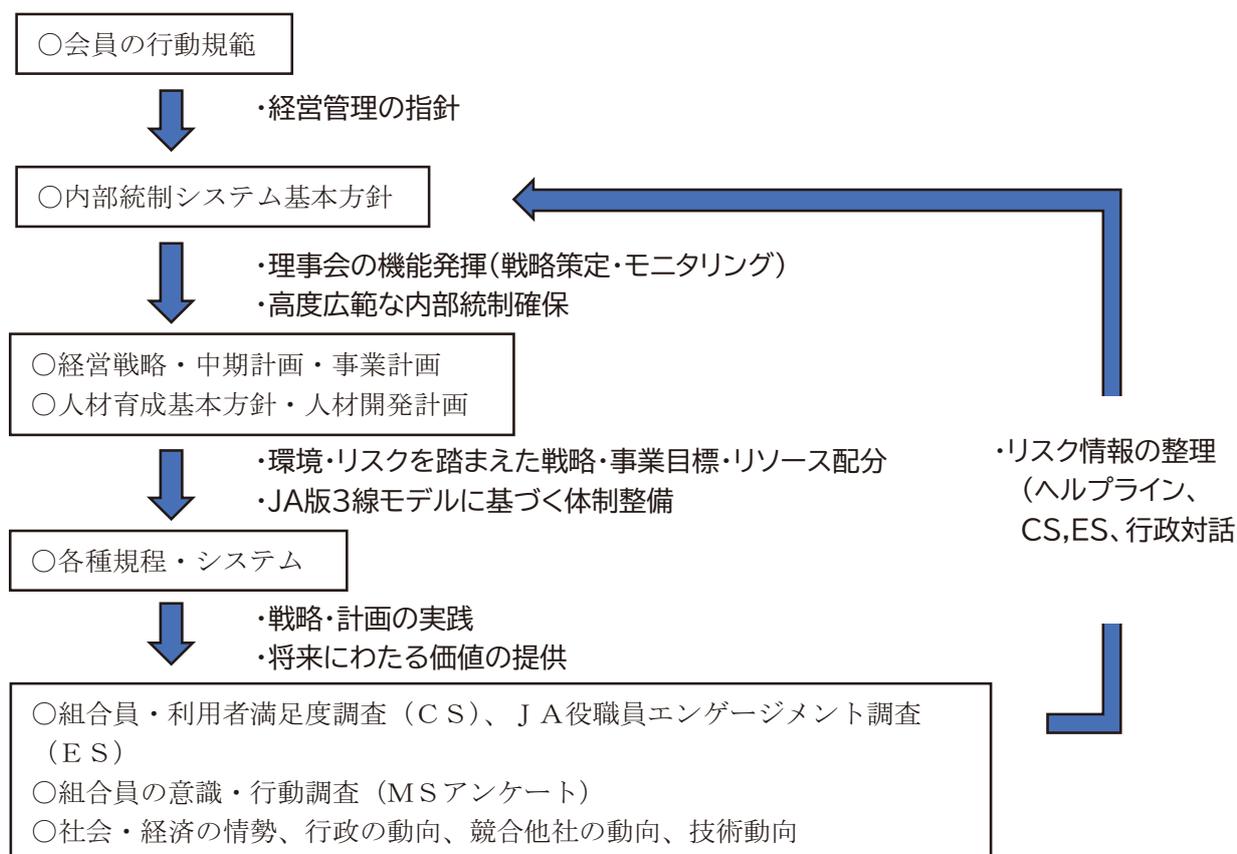
1. はじめに

JA不祥事発生の高止まり、社会規範の変化への対応の観点から、適切なコンプライアンス・ガバナンス態勢の構築と実践が、JAグループの組織運営における優先課題となっており、規制改革実施計画（令和5年6月16日閣議決定）においても、JA内部統制システム（JA版3線モデル）の実効性の向上が求められている状況にある。

本県JAグループでは、これまでも3線モデルの構築に取り組んできたが、令和6年度からJAグループが行うさらなるリスク管理強化に向けた取組みを説明したい。

2. JAグループ経営管理にかかる体系

まず、リスク管理の全体像についてであるが、JAグループ共通の経営管理指針である「会員の行動規範」から始まり次のような体系となっている。



3. JA 3線モデルの位置付け

内部統制システムの整備については、JA役員の重い役割・責任が生じることから、組織としての管理

責任を果たすべくJA役員が、リスク管理と内部統制を効果的かつ効率的に実践するための組織内役割分担として3線モデルの整備・強化に取り組む必要がある。

<理事会>

- ・法規制および倫理的な期待を確実に満たしながら事業計画はじめ組織としての目標を達成する。
- ・独立した内部監査機能確立して監督し、組織目標達成に向けた進捗を明らかにし、達成を確実にものとする。

<組合長・常勤理事・リスク管理委員会（同種の会議体）>

- ・事業活動と経営資源を主導し指示してJAの目標を達成する。
- ・リスクを管理するために適切な構造とプロセスを確立し維持・改善する。

<第1線>本支店・本店業務所管部ほか

- ・収益獲得もしくはコスト削減を責務として事業活動と資源活用を行う
- ・事業活動に伴うリスク事象について説明責任と結果責任を負う

<第2線>リスク管理部門（リスク統括・コンプラ・審査・資産査定）

- ・1線部署から独立した立場でリスク・モニタリングを行い、1線部署が行うリスク管理に対して必要な支援と助言および牽制を行う。
- ・リスク評価を行い、必要な対応策を検討・策定してリスク管理委員会・理事会への報告・協議を行う。

<第3線>内部監査

- ・リスク管理機能および内部統制システムについて合理的な保証・助言を与える。
- ・内部監査による発見事項を経営管理者および統治機関に報告して、継続的な改善を奨励・促進する。

4. JA3線モデルの機能強化

JA3線モデルのフレームワークを有効に機能させるため、次のようなライン毎の機能強化が必要となる。

(1) 第1線

- ・組合員・利用者本位の事業運営の徹底
- ・自主検査の実効性向上、所管部による臨店指導
- ・リスク管理・内部監査の理解浸透

(2) 第2線

- ・役割・業務の明確化および体制の整備と要員確保
- ・リスクアプローチによるリスク管理
リスクモニタリング・リスク評価と対応策の検討

(3) 第3線

- ・リスクアプローチ監査の実践
- ・リスク・統制活動の評価・保証

今回は、リスク管理においてさらなる機能強化が求められる第2線部署の取組みについて説明したい。

(中央会 経営対策部)



組織農政通信

「JAくらしの活動」をすすめよう！

「JAくらしの活動」は、活動参加を通して組合員の共感や親しみを高めるとともに、「わがJA意識」の醸成や、関係人口の創出を促して地域の活性化につなげることでできる手段である。

令和3年10月に開催された第29回JA全国大会においては、「持続可能な農業・地域・組織・事業基盤の確立」を進めるために、JAグループが目指す方向性として決議された。その中で、「JAくらしの活動」については、メンバーシップ強化の手段として位置づけ、戦略的な展開を図ることが決議された。

1. 「JAくらしの活動」とは

「安心して暮らせる地域づくりと豊かな暮らしの実現」を理念とし、①組合員の意志反映・運営参画へのステップアップに向けて、メンバーシップの各段階に応じた対応や活動の充実に努め、JAの理解者や組合員・地域住民の活動参加を促す、②メンバーシップ強化の手段として位置づけ、その目的を明確にするとともに、組合員のニーズに応じた戦略的な展開を図ることを目的としている。



2. 「JAくらしの活動」はなぜ必要なのか

第29回JA全国大会では、JAグループの危機を、①農業・農村の危機、②協同組合の危機、③組織・事業・経営の危機の3つに整理している。「JAくらしの活動」は、これらの危機といわれている状況に対抗し、全てのJAが組織基盤を強固にして前進するための有効な手段の1つである。

特に、健康づくり活動については、現役組合員世代に長く営農活動を行ってもらい、また地域住民には長くJAを利用してもらうためにも重要な活動である。

3. 「JAくらしの活動」の進め方

「JAくらしの活動」分野は幅広く多様である。組合員や地域住民がどのような思いやニーズを持っているかを把握して、参加・参画のレベルを踏まえて取り組む必要がある。そのためには、JAの強みである総合力を発揮した取り組みが重要であることから、今後ますますJA内部での理解を深め、JA全体の活動として取り組む必要がある。

JAくらしの活動の進め方は？

本店	経営
<ul style="list-style-type: none"> ● 総合企画部署で担当する ● JA全体の司令塔としてマネジメントする ● 担当者を明確にする ● 支店ごとに策定した計画を一元化する ● JA内の活動のサポートと進捗管理 	<ul style="list-style-type: none"> ● 参加者の受益者負担を基本とする <h4>広報活動と連携</h4> <ul style="list-style-type: none"> ● 参加者募集や活動後の広報活動を活発に行う ● 特に、LINE・フェイスブックなどのSNSを積極的に活用する
支店	ニーズの把握
<ul style="list-style-type: none"> ● 支店長の職務基準に「くらしの活動」を加え、支店の活動をマネジメントする ● 支店活動計画を作成し、活動を実施する ● JAくらしの活動を支店運営委員会の議題にする（ニーズの把握、活動の企画・運営・協力体制等を協議） ● 支店だよりを発行する ● 地区内の多様な組織と連携する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動は前年同様ではなく、日頃の対話によって、組合員・地域住民の声を聴き、反映する <h4>関係の継続</h4> <ul style="list-style-type: none"> ● 活動後は、訪問活動やJAからのご案内を送るなど、せっかくできた関係を継続する工夫をしましょう

JAくらしの活動は、なぜ必要なの？

- #### 1 農業・農村の危機

農業組合員の高齢化、担い手の減少。第一世代がリタイアする世代交代期に、第二・第三世代のJA離れが課題

第二・第三世代の「わがJA意識」や親しみを高めるためには、事業以外の部分＝「活動」でもつなげる必要がある
- #### 2 協同組合の危機

正・准組合員の逆転など、組合員構成の変化等により、「わがJA意識」の低下や協同組合に対する理解不足が課題

「わがJA意識」の薄い組合員に対して、ニーズに応えた「活動」に気軽に参加してもらうことで、JAへの接点・共感を広げメンバーシップを向上させる必要がある
- #### 3 組織・事業・経営の危機

JAの事業取扱高・事業総利益は減少傾向。JA経営の悪化でJA組織基盤の弱体化が課題

地域農業振興とJA経営の安定のためには、JA事業の「新たな利用者」を増やし、農業振興の応援団になっていただく必要がある。組合員・地域住民との接点・きっかけとして「JAくらしの活動」を活かし、事業利用の促進で農業・JAファンを増やすことが必要

3つの危機に対応するには、第二・第三世代・准組合員を中心としたアクティブ・メンバーシップの確立が必要

人と人を基盤とし地域に根ざした協同組合として、世代交代の差を組合員との絆を取り戻す

人々の生活に真に寄り添った「JAくらしの活動」を展開することで、組合員・地域住民との関係性を高め、農業振興の応援団＝関係人口を増やすことが必要

「JAがなくなってよかった」と言われる地域づくりに貢献する

「JAくらしの活動」の具体例には、「食農教育」、「健康づくり活動」、「高齢者福祉活動・助けあい活動」、「文化活動」、「まつり等の支店イベント」、「地域貢献活動」などがあるよ！



(中央会 農業対策部)

暑さに負けず熱く盛りあがったJA夏まつり

J A相馬村は8月10日、合併60周年記念の「JA夏まつり」を、JA本所フルーツステーション前で開催した。日頃お世話になっている組合員の皆様へ感謝の気持ちを込めて、例年よりスペシャルな内容で行われ、組合員家族、地域住民などたくさんの方が訪れた。

テツ and トモのお笑いライブを始め、盛りだくさんのステージイベントや豪華賞品が当たる大抽選会など、会場は大いに盛り上がった。JA役職員総出による出店コーナーや、子ども達で大賑わいの縁日コーナーも、長い行列ができるほどの人気ぶりであった。

同JAの大場勉組合長は「多くの方に来場いただき、楽しんでいただけたことを嬉しく思う。地域の方や若い人たちにJAを知ってもらいたい良い機会になった」と話し、JA夏まつりの成功を喜んだ。



JA役職員の出店コーナー



ステージイベントの様子



テツ and トモのお笑いライブ



大抽選会で商品を贈呈する大場組合長④



JA青森中央会
農業対策部 農業支援課
たかの こうき
高野 航希 さん

輝き

●プロフィール

2023年4月から勤務 青森市出身 23歳

— 働くきっかけは？ —

「地元青森に貢献できる仕事をしたい」と思っていた中で、大学のゼミの先生やキャリアセンターの方から紹介を受けました。大学時代に学んだ経営・会計学の知識を生かしてJAの経営支援に携わりたいと思い、入会しました。

— 業務内容を教えてください。 —

農業者支援関連会議の企画・運営や助成金の事務局、GAPや環境に関連した事業等を中心に担当しています。

— 働いた感想は？ —

農業に関する知識の無さを痛感しています。ただ、情報収集しつつ仕事をこなしている中で、農業が持つ奥深さを実感し、少しずつ魅力を感じています。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

常に前を向き続けることです。社会人になって壁に当たることも多くあると思いますが、自身の成長の為に日々、前を向いて自分なりに努力することを心がけています。

— 特技・趣味は？ —

趣味はスポーツ観戦と音楽鑑賞です。スポーツは、野球・サッカー・バスケが好きで、地元チームの応援を含めて忙しい毎日を送っています。音楽については、特に邦ロックバンドが好きで、普段聞くだけでなくライブにもよく行きます。

— あなたが自慢できることは？ —

優しさと笑顔です。特に優しさだけは誰にも負けません。これだけが取り柄です。

— 将来の夢は？ —

好きなブランドや欲しいと思った服をすぐ買えるくらいお金を余裕を持つことと、身長をもっと伸ばすことです。



気候生かし農薬抑制

収穫されるニンジン



JAおいらせやさい推進委員会にんじん部会は、部会員141人で構成する。6月下旬から7月に収穫する夏ニンジンと、10月から11月に収穫する秋ニンジンを中心に全国各地へ出荷している。

栽培面積は約210㌦で、品種は「彩誉7」「紅吉」「紅福」の3種。部会のニンジンは、気候を生かしたトンネル栽培とべたがけ栽培で育てる。冷涼な気候で害虫の発生が少ないため、極力農薬を控えた栽培方法をとっている。

部会で個選出荷する農家はごく一部で、ほとんどの部会員が収穫作業と洗浄、選別作業をJAに委託している。昨年度の出荷量は5759トで、市場からは「濃紅色で中心まできれいに着色する。抜群のそろい」と評価されている。生食からジュースまで、幅広い用途と食味の良さが特徴。

部会では、2024年度の目標出荷量を6050トに設定し、部会員一丸となっておいしいニンジン作りに力を注いでいる。

新風

JA青森

核家族需要でミニ野菜
作業軽減へ日々研究

青森市の佐々木恵悦さん（57）は、ミニ野菜の生産に挑戦している。

2023年から試験的にミニキュウリの栽培に取り組んでいたが、今年に入ってから本腰を入れて栽培を開始。自身が会長を務めるJA青森あすなろ直売センターの他、地元のスーパーにも卸している。ミニキュウリの他、ミニトマトの栽培もしている。

核家族化が進む中ではミニ野菜には需要があるが、小さいうちにたくさん収穫しなくてはならない大変さから、栽培する人が少ない。

農作業をもう少し楽なものにできれば若い世代にも参入してもらえるのではないかと考え、栽培方法などを自身のほ場で研究しながらミニ野菜を栽培する。

消費者の声を大事にしている佐々木さんは「食べてもらうからには、おいしい野菜を」という思いで日々農作業に励む。

「ミニキュウリやミニトマト以外にも、小ナスや柔らかくて甘いミニハクサイなどにも挑戦していきたい」と今後に向けて意気込みを語る。



ミニキュウリを収穫する佐々木さん

後編 記集

暑い日が続く中、皆さん体調は大丈夫ですか。

今回の写真は「自衛艦」です。大湊を母港とする第15護衛隊の「はまざり」、7/21青森市の特別乗艦の様子で、大湊音楽隊の演奏もありました。今度はイージス艦「まや型」、最新艦「もがみ型」も見てみたいですね。とにかく当日は暑かった以上。

それでは皆様、「SEE YOU ON OCTOBER!!」

(一)



ホームページアドレス

- JA青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧ください。
- JAバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシミュレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧ください。
- JA全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。

平成14年3月31日以前に
農林漁業団体にお勤めされていた方

農協

森林
組合

漁協



特例一時金が
もらえるかもしれません！

下記にお心当たりがある方、ご連絡をお願いします！

- 1 平成8年12月以前に団体を退職している
- 2 「ねんきん定期便」に農林年金期間が含まれていない
- 3 農林年金から一時金を受け取ったことがないが、何の連絡もない

※上記のいずれかに当てはまっても過去に退職一時金を貰っている場合や、加入期間等によって特例一時金がお支払いできない場合もあります。

住所登録
センター

0120-199-1555

※対象団体は農協（農業協同組合、経済連（県農）、共済連、信連、厚生連（厚生連病院（（厚生病院））、ホクレン等）、漁協、森林組合、農業共済、土地改良区、農業会議、たばこ耕作組合、農業信用基金協会などにお勤めだった方。

農林漁業団体職員共済組合（農林年金） <https://www.norin-nenkin.or.jp/>

農林年金



詳しくはQRコードからもご覧いただけます



うけとりくん

知る、活かす、つなぐ

～JAグループ情報共有運動～



JAグループの広報・PRは日本農業新聞の広告で。

Q 日本農業新聞



全国約30万部発行。
全国のJAが出資し、農業の専門紙
では唯一の日刊紙。
農家組合員とJAグループ、地域を
つなぐ全国メディアです。

Q 日本農業新聞公式サイト



月間ページビュー数約90万。
農業関係者だけでなく、幅広い年代の
ユーザーに閲覧されています。
Yahoo!ニュース、SmartNewsなどから
も多数のユーザーが流入しています。

Q フレマルシェ



全国約25万部発行。
JAのファーマーズマーケットを
中心に配布している消費者向けフ
リーペーパーです。メイン読者層
は30代～60代の女性です。

お問い合わせ先：日本農業新聞広告部

Eメール koukoku@agrinfo.co.jp TEL 03-6281-5810



THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞



家の光

IE no HIKARI

お申し込みはお近くのJAへ

定価(税込) ●普通月号629円 ●特別月号(1・4・5・7・9月号)922円 ●12月特別号1,027円

JAグループ 家の光協会 〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL. 03 - 3266 - 9039 <http://www.ienohikari.net/>

イ
キ
イ
キ

記事活用で楽しく

ワ
ク
ワ
ク

読み応えある記事に

ぜひ
ご購入
ください!

